

大阪都市計画局・令和7年度部局運営方針

大阪都市計画局では、大阪の成長や発展を支える大都市のまちづくりを広域的な視点から府市一体で推進しています。令和7年度は、次のテーマについて重点的に取り組みます。

重点テーマ：大阪・関西万博を契機に、「大阪のまちづくりランドデザイン」に基づき、多様な主体との連携のもと、民間投資を促す情報発信などにより、まちづくりの機運醸成を図るとともに、大阪のポテンシャルを活かしたまちづくりを推進します。

〔主な取組〕

■ まちづくりランドデザインの推進

- グランドデザイン推進本部会議や市町村まちづくり連携会議等の推進体制のもと、民間等の活力を最大限引き出しながら、まちづくりを推進
- まちづくりセミナー等による大阪のまちづくりの戦略的な情報発信により、まちづくりの機運醸成を図るとともに、大阪・関西万博で「大阪ウィーク」に出展し、大阪府内のまちづくりをPR
- 市町村等への自律的なまちづくりを支援するためのまちづくり指針の活用による技術的支援や、鉄道事業者・沿線市町村と連携した鉄道沿線まちづくりなどのコーディネートを実施
- 南河内地域まちづくり検討会において、市町村との連携のもと、これまでの企業とのマッチング成果を踏まえ、まちづくり実証イベントや広域プロモーションを実施
- 官民連携による計画的な市街地の更新(市街地リノベーション)を促進させるため、地元市や関係機関との連携のもと、将来ビジョンや、3D都市モデルを活用したプロモーションコンテンツの検討を行い、民間投資を促す情報発信につなげる取組を実施

■ 国際競争力を持った都心部の拠点形成

- うめきた2期地区において、「みどり」と「インベーション」の融合拠点の実現に向け、令和7年3月のグラングリーン大阪南館等の開業により、全体の約8割の範囲がオープンし、その魅力を国内外に発信していくとともに、令和9年度の全体まちびらきに向け、関係者との連携のもと、まちづくりを推進
- 新大阪駅周辺地域において、官民連携のもと、世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現に向け、新たなキャッチフレーズ「新しいの、その先へ 新大阪」を活用したプロモーションなどによる民間都市開発の機運醸成を図るとともに、駅周辺の空間形成に向けた具体的な検討を実施
- 大阪城東部地区において、関係者と連携し、新駅のインパクトを活かした1.5期開発の令和10年春からのまちびらきに向け、大阪公立大学森之宮1.5期キャンパスや大規模集客・交流施設等の開発事業者の選定、大阪城公園接続デッキの整備着手とともに、2期以降のまちづくりに向けた取組を推進
- 夢洲第2期区域において、第1期区域のIRとも連携した国際観光拠点の形成に向け、夢洲第2期区域マスタープランを踏まえ、開発事業者を募集するなどまちづくりを推進

■ 府内各地域における拠点形成・まちづくりの推進

- 彩都の東部地区において、多様な企業ニーズを踏まえた土地利用計画に基づく土地区画整理事業の促進により、複合産業拠点の形成に向けた取組を推進
- りんくうタウンにおいて、企業誘致や土地分譲を進めるとともに、公民連携により、まちのにぎわいづくりを推進
- 千里・泉北ニュータウン等において、高齢化や都市施設の老朽化等の課題に対し、公的賃貸住宅の建替で創出される用地の利活用や、環境配慮・ICT活用等の先導的なまちづくりを推進
- 市街地再開発事業等による鉄道駅周辺のまちづくりや、幹線道路沿道における土地区画整理事業による産業立地の誘導など計画的なまちづくりを推進

■ 広域連携によるまちづくり

- 地域資源の活用の観点から、近隣府県や市町村等の広域連携により、サイクルルート沿線の魅力を発信するなど自転車を活用したまちづくりを推進
- 淀川大堰閘門(令和7年3月開通)を活かして淀川舟運の活性化を図るとともに、公民連携により、船着場周辺をはじめとする淀川沿川の地域資源を活用したまちづくりを推進
- 地元市や関係機関との広域連携により、「サイクルロゲイニング」や「歴史山歩」など、生駒山系の豊かなみどりや自然空間などを活用したまちづくりの取組を推進
- 大阪・関西万博などのインパクトや泉州地域沿岸部の様々な地域資源を最大限に活用し、沿岸市町との連携のもとベイエリア全体の活性化に向けた取組を推進

■ 都市計画制度等を活用したまちづくり

- 都市計画をはじめ、市街地整備、都市再生緊急整備地域等を含む都市再生などの制度の活用等により、民間主導のまちづくりを推進するための環境を整備
- 府市ノウハウを活用するなど、市町村を広域的な観点から支援するとともに、大阪市内については「ワンストップ窓口」を活用した、民間事業者の負担軽減や利便性向上